

深谷市の花 チューリップ

深谷市は古くからチューリップの切花が生産されています。

チューリップは春にかけて咲く花というイメージがあり、卒業式や卒園式の際に、花壇で咲いているのをよく見かけることと思います。

1 チューリップ切花の 主な作型

J A ふかや藤沢支店チューリップ部会では、チューリップ切花を10月下旬から翌年4月上旬にかけて出荷しています。



深谷を代表する
チューリップ切花

(1) 年内出荷作型 (コンテナ栽培)

10月下旬から12月にかけての年内出荷作型では、ニュージールラン

ドから輸入した球根を6月から7月にかけてコンテナに定植し、コンテナごと冷蔵庫に入れて氷温貯蔵して日本の暑い夏を過ごします。その後、10月上旬頃に冷蔵庫から順次出してパイプハウス内で栽培することで、チューリップに春が来たと感じさせ、つぼみが上がってきたら収穫し、出荷しています。今年度の年内出荷作型は22品種、約18万4千本が生産される予定です。

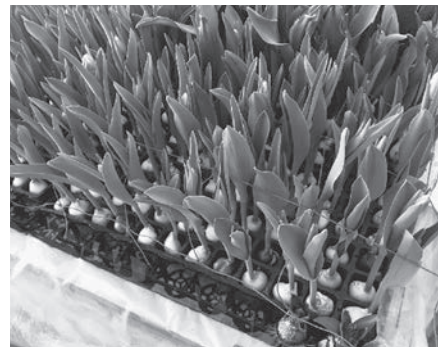


冷蔵庫から出したコンテナを
ハウスに並べた様子

(2) 年明け出荷作型 (ハウス促成栽培)

12月から4月にかけて収穫する年明け出荷作型では、オランダから輸入した球根をパイプハウス内の土壌に定植し、深谷の冬季の豊富な日照量を活用しながら、なるべく低い温度でじっくりと栽培す

ることで、高品質の切花を生産しています。従来のハウス内の土壌に球根を定植して栽培する他に、水だけで栽培する水耕栽培も行われています。



チューリップの水耕栽培の様子

2 チューリップ切花の目持 ち性向上対策について

今年度の年明け出荷作型は95品種、約89万6千本が生産される予定です。

チューリップ切花は、秋冬から早春の代表的な花材として流通していましたが、近年、スイートピーやランキユラス等の洋花類の切花が出荷されるようになった影響で、市場シェアを奪われつつあります。

チューリップは、他の洋花類と

比較すると鑑賞期間が短いことや、観賞中に徐々に茎が伸長することが長年の問題となっており、そのことが購買意欲の低下と単価の伸び悩みを招いています。

しかし、近年はチューリップの鑑賞期間を伸ばし、茎の伸長を抑制する薬剤が開発され、薬剤を用いて水揚げすることで日持ちを向上させることができるようになりました。

J A ふかや藤沢支店チューリップ部会では薬剤を使った出荷について、何年にも渡る試験を重ね、導入に向けて検討した結果、平成30年度は共選出荷で薬剤を使った出荷に取り組むことになりました。



薬剤による鑑賞期間の延長
左が未使用、中央・右が使用

チューリップ切花を農産物直売所や花屋で見かけた際はぜひ購入いただき、部屋に飾って早春の彩りをお楽しみください。